

## 第19回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞受賞作

全国の書店で続々1位を獲得！デビュー作が大反響

はやくも

『元彼の遺言状』**15万部**突破！

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が2021年1月8日(金)に発売した、第19回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞受賞作の『元彼の遺言状』が、発売から3週間で発行部数15万部を突破しました。デビュー作ながら全国の書店で1位を獲得し、テレビ・新聞・ラジオなど各種メディアで取り上げられ、注目を集めています。



## 『元彼の遺言状』

発売日:2021年1月8日

定価:本体1400円+税 判型:四六判

本書は、「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という元彼の奇妙な遺言を受け、女性弁護士が依頼人と共謀して分け前を狙う遺産相続ミステリーです。選考委員より、「強烈にキャラの立った女性弁護士もの」「とにかく主人公の人物造形に魅了されました」「人間関係もよく練り込まれていると思った」と、強烈で魅力的なキャラクター造形と発想力が高い評価を受け、満場一致で大賞に決まりました。

『このミステリーがすごい！』大賞は、ミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002年に創設した新人賞です。これまで、第153回直木賞受賞者の東山彰良氏や、累計1000万部突破の「チーム・バチスタの栄光」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出してきました。また受賞には及ばなかったものの、将来性を感じる作品を「隠し玉」として他の受賞作と同様に書籍化。「珈琲店タレーランの事件簿」シリーズをはじめ、「隠し玉」からもベストセラー作品が多く生まれています。他にも『さよならドビュッシー』、「スマホを落としただけなのに」シリーズなど映像化作品も多数世に送り出し、作家の育成のみならず、エンタメコンテンツの創出にも広く寄与しています。

受賞者のインタビューも可能ですので、是非、取材をご検討いただけますと幸いです。『このミステリーがすごい！』大賞は、これからも新しい作家・作品を発掘・育成し、業界の活性化に努めてまいります。

16歳の時からずっと作家になりたいくて、弁護士となったのちも、執筆時間を確保するために三度転職しました。晴れて十余年越しの念願が叶い、作家デビューできただけでも望外の喜びでした。そのうえ、多くの方のお手に取っていただき、大変有難く感じております。暗い世相だからこそ明るい小説を書いて、読者さんの生活を少しでも明るくしたいと思いつつ、本作に取り組みました。しかし実際は、読者さんからの反響に私のほうが励まされています。今は本作の続編に取り組みしておりますが、今後もたくさん良い小説を届けていきたいです。



著者取材可能です！

## 新川帆立(しんかわ・ほたて)

1991年2月生まれ。アメリカ合衆国テキサス州ダラス出身、宮崎県宮崎市育ち。東京大学法学部卒業。高校時代は囲碁部に所属し全国高校囲碁選手権大会にも出場。囲碁部で麻雀にも興味を覚え、司法修習中に最高位戦日本プロ麻雀協会のプロテストに合格しプロ雀士としても活動経験あり。作家を志したきっかけは16歳のころ夏目漱石の『吾輩は猫である』に感銘を受けたこと。作家になるために「粘り強く長期戦に対応できるための食い扶持が必要」と考え弁護士になる。